

江津地域の県立高校の在り方に係る県議会質問・答弁について
島根県自民党議員連盟坪内議員 11 月定例会一般質問・知事・教育長答弁

令和 5 年 12 月 6 日

6 月定例会では、江津地域における県立高校の在り方について、江津高校と江津工業高校の統合に向けての基本的な方針案が示されました。以降、県教育委員会においては、江津高校・江津工業高校両校への説明会や地域説明会、地元産業界からの意見聴取などを行ってこられました。

私も 6 月定例会、9 月定例会と続けてこの件を取り上げ、6 月定例会では、江津地域における県立高校の在り方の検討に至った背景や今後どのような方向性で検討していかれるのか、またどのようなスケジュールで検討を進めるのか質問をさせていただきました。その上でできるだけ学校や地域の関係者の意見を聞いていただきたいと求めたところであります。

9 月定例会では、県が掲げる望ましい教育環境とは具体的に何を指すのか、当初示された方針案に対して、普通科系・工業科ともに 2 学級設置とすること、工業高校の学びに土木系の学びを加えることで工業教育のさらなる充実・特色化を図るべきという、地元からの意見を取り上げたところでございます。また、近年の両校の卒業生の進路状況を踏まえ、これまで以上に島根県立大学やポリテクカレッジ島根との連携が重要ではないかと質問させていただきました。

そして、県教育委員会は、8 月 9 日には、江津地域における県立高校の在り方について、有識者で構成される総合教育審議会に諮問し、審議会では地域関係者からの意見聴取等を行い、4 回にわたり審議が続けられてきました。その答申が 10 月 19 日、野津教育長に対し提出されました。答申では、江津地域の子どもたちの教育環境の維持、進路の選択肢を維持するためには、令和 10 年度前後を目途に江津高校、江津工業高校の 2 校を統合し、新たな魅力ある高校を設置することが望ましいこと、また、統合する両校の一定の対等性も必要であるという考え方から、普通科系、工業科いずれも 2 学級 60 人定員とする内容でありました。

さらに、この枠組みの他にも、新設校の設置にあたって考慮すべき視点として、県内初となる普通科系と工業科が併置された高校ならではの魅力の検討、地域や近隣教育機関との連携による魅力的な学びの検討、生徒一人ひとりへの指導・支援の充実などが付言されています。

総合教育審議会の答申を受け教育委員会は、当初示していた、普通科系学科 40 人 1 学級、工業科 40 人 2 学級の基本的な方針案を、全体の定員は 120 人としたままで、普通科系学科 30 人定員 2 学級、工業科 30 人定員 2 学級に修正するなどし、10 月 24 日から 11 月 23 日までの間、パブリックコメントを実施されました。そこで、基本的な方針案を修正するに至った理由について伺います。

(教育長答弁)

はじめに、江津地域の県立高校の在り方について基本的な方針（案）を修正するに至った理由について、お答えします。

7月に行った学校関係者説明会や地域説明会では、江津地域での普通科系への進学ニーズは大きい、理系進学に対応して欲しい、江津高校の地域と連携した学びが地域に果たしてきた役割は大きい、などのご意見をいただきました。

また、有識者で構成する総合教育審議会からは、探究的な学びを生かしていくべき、統合する2校の一定の対等性も必要、などといった内容の答申をいただいております。

これらのご意見等を踏まえ、普通科系のコースには、理系進学への対応と地域課題を探究して進学をめざすことも想定いたしました。

工業科には、地元産業界からの、土木系人材が必要である、とのご意見を踏まえ、土木系の学びを加えております。

定員については、少子化がさらに進むことには変わらないことから、総定員数の120人は変えずに、普通科系2学級60人、工業科2学級60人に修正いたしました。

また、県立大学やポリテクカレッジ島根との連携をさらに深めて魅力的な学びを実現すべき、とのご意見を地域、審議会の双方からいただき、地元教育機関と連携し、探究的な学びを生かした魅力ある教育を展開することを加えております。

今後、開校までの検討過程において、さらに、開校後であっても地域や社会のニーズを捉え、時代にあった魅力ある学びとなるよう柔軟に対応する旨も加えております。

また、このパブリックコメントでは、地域の方々や保護者、両校の関係者などたくさんの皆さんから意見が寄せられたのではないかと思います。パブリックコメントに寄せられている意見にはどのような意見があり、それらに今後どのように対応していくのか伺います。

(教育長答弁)

次に、パブリックコメントにどのような意見が寄せられたのかについて、であります。

修正した基本的な方針（案）に対する意見募集を、10月24日から先月23日までの1か月間実施し、20人の方から64件のご意見をいただきました。

主なご意見といたしましては、統合はベストの判断である、基本的な方針（案）を支持する、などの賛成のご意見や、普通科系に理系進学対応や、地域の課題を探究し進学を目指すコースを加えたことへの賛同のご意見、島根県立大学やポリテクカレッジ島根との連携をさらに推進して欲しいというご意見に加え、統合の方針を受け入れた上で、新設校の学びの内容に対する要望が多くあり、修正した基本的な方針（案）は一定のご理解を得たと受け止めております。

一方で、反対のご意見の中には、江津高校と浜田高校を、江津工業高校と浜田商業高校を、それぞれ統合することで、江津地域の普通科系の学びは浜田高校と石見智翠館高校が担い、商業人材を含む産業人材を江津地域で育成すべき、というご意見が複数ありました。

県教育委員会といたしましては、江津高校が昭和33年に江津市待望の普通科高校として設置され、以来65年間にわたり普通科人材を輩出してきたことに鑑み、人材育成、移住・定住、まちづくりの観点から、今後も江津地域に県立の普通科系の学びの場を残すことが必要であると考えております。

今後の対応といたしましては、パブリックコメントでいただいたご意見を整理し、反対や疑問のご意見に対しては、丁寧に回答したいと考えております。

また、医師や介護人材を育成するための学びや、情報系の学びを設定して欲しいなどの具体的な学びの内容に対する要望、校舎や女子寮など施設・設備の整備に対する要望、さらに、子どもの意見を聴いて欲しいといった手続き上の要望もございました。

いずれも、江津地域の高校教育について真摯にお考えいただいたご意見だと感謝しております。

こうした要望につきましては、基本的な方針を決定した後に検討してまいりたいと考えています。

教育委員会が示した方針案が実現されれば、普通科系と工業科の統合による高校の新設が県内で初の事例となります。教育委員会においては、この度の方針案の策定にあたり、普通科系学科と工業科を併設している他県の先進事例の視察を行ったと伺います。そこで、普通科系学科と工業科の統合によるメリットとデメリットをどのように認識しているのか伺います。併せて、デメリットに対しては、どのように対応し、今後の江津地域における県立高校の在り方の検討に活かす考えなのか伺います。

(教育長答弁)

次に、新設校に普通科系の学科と工業科が併設されることについてのメリット、デメリットについて、であります。

普通科系と工業科系を併設することで次のようなメリットが考えられます。1つには、普通科系の探究学習に工業科の知識・技術が加わり、活動が深まる。2つには、工業科の課題研究に普通科系の探究学習等で把握した地域や社会のニーズ等が加わり、新たなモノづくりができる。3つには、普通科系の生徒が工業系の資格を取得し、就職することができる。4つには、工業科の生徒が普通科系の生徒とともに進学指導を受けることができるなど、これまで県内にはなかった学びが作り出せると考えています。

デメリットといたしましては、開講される科目の種類や数が多くなることで、時間割を編成することや、学校行事をいつ行うかなどの年間計画の調整が難しくなること、進学指導と

就職指導の時期が重なったときに指導体制が複雑になること、などが想定され、他県でも苦慮していると聞いております。

これらのデメリットにつきましては、学年間の連携や学科同士の連携といった縦と横の連携をしっかりとることで軽減できると考えています。

仮に、現在の基本方針(案)のとおり決定した場合には、地域の関係者のご意見もお聴きしながら準備してまいりたいと考えております。

教育委員会では、これまでの地域説明会や答弁でもふれられてきたように、年内を目途に基本的な方針を決定したいとし、統合後の教育課程や施設整備、学校行事や部活動の在り方などについては、方針決定後に検討を行うとしています。教育課程などの詳細については今後どのように検討・決定をしていく考えか伺います。

(教育長答弁)

次に、今後の検討の進め方について、であります。

先ほども申し上げたとおり、パブリックコメントでいただいたご意見を整理するとともに、今議会におけるご意見を踏まえ、年内を目途に基本的な方針を決定したいと考えています。

仮に、現在の案のとおり決定した場合のその後の進め方について、過去に統合した高校の例を参考に申し上げますと、まず、教育委員会事務局と学校関係者とで構成する開校準備委員会を立ち上げ、そこで基本的な方針を踏まえた教育課程や特色ある教育活動についての検討に入ります。合わせて、必要な施設・設備の整備についても検討していくことになります。

このたびの検討におきましても、具体的な学びの内容については、パブリックコメントや、その他、これまでいただいたご意見を踏まえて今後、検討してまいります。

また、適切な時期に、地域の中学生等の意見を聴く機会を設ける予定であります。